

公民館 ふっさ

FUSSA CITY 50th ANNIVERSARY
福生市制施行50周年記念ロゴマーク

No.161 目次

- 1 公民館運営審議会～市民と公民館の架け橋～
- 2・3 公民館ふっさ誌面講座
- 4 多言語AIチャットボット・サークル紹介・これからの事業

令和2年11月1日

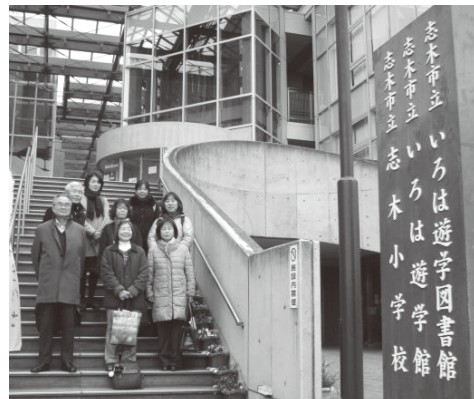
公民館ページQRコード



編集発行	福生市公民館 公民館係	〒197-0011 福生市福生2455 ※市民会館併設	〒197-0011 福生市福生2455	※市民会館併設		
	公民館松林分館	〒197-0013 福生市武蔵野台1丁目15-1	〒197-0013 福生市武蔵野台1丁目15-1	☎ 042-552-3624	FAX 042-530-2512	
	公民館白梅分館	〒197-0003 福生市熊川1559-1	〒197-0003 福生市熊川1559-1	☎ 042-553-3454	FAX 042-530-2513	

公民館運営審議会

より良い公民館活動を目指して～市民と公民館の架け橋～



視察研修の様子(令和元年度)

【近年の諮問・答申の内容】

- ・福生市公民館の将来像について
- ・公民館の情報提供の在り方について
- ・公民館における利用者交流の場のあり方について

公民館運営審議会(以下、公運審)は、社会教育法第29条ならびに福生市公民館条例第17条に基づき設置されています。公運審は、各団体からの推薦ならびに公募等によって選出された10人の委員で組織されています。

月1回の定例会をはじめ、社会教育法第27条に基づき、公民館長の諮問に応じ、公民館における事業の企画実施について調査、審議等が行われています。

また、他市町村の社会教育関連機関、社会教育施設等を訪問し、公運審の活動や課題について研修を行っています。

公運審は、公民館利用者や公民館を利用したことがない市民に対して、公民館の現状や公運審の活動を知っていただくため、公運審が企画・編集を行い、『公運審だより』を発行しています。公運審だよりは、1989年1月に第1号が発行され、以後、今まで継続して発行されています。公民館資料室等で閲覧できますので、ぜひご覧ください。

公民館運営審議会委員(市民公募委員)を募集します

現在の委員の任期満了(令和3年3月末)に伴い、市民公募委員を募集します。公民館運営審議会委員10人のうちの2人を公募により選出します。

【活動内容】 定例会月1回。視察研修、関東甲信越静公民館研究大会や東京都公民館連絡協議会が主催する大会・研修会等への参加。自主活動等

【任期】 令和3年4月から2年間

【報酬等】 市の規定による

【応募資格】 市内在住の20歳以上の方(令和3年4月1日時点)。ただし、市が公募した他の委員との兼務はできません。

【募集人員】 2人

【応募方法】 「公民館に期待すること」と題した800字以内の作文に、住所、氏名、性別、生年月日、職業、電話番号を記載したものを添えて、12月1日(火)まで(必着)に郵送(〒197-0024 福生市牛浜163番地さくら公民館内 公民館公民館係宛)、または公民館公民館係(さくら公民館内)に直接持参してください。※提出した書類は返却できません。選考結果については、後日通知します。

【問合せ】 公民館公民館係
☎ 042・552・2118

AI(人工知能)が質問にお答えします!!

多言語AIチャットボット& AIスピーカーの実証実験について

日本人にも外国人にも分かりやすい行政サービスの案内を目指して、AI(人工知能)を活用した実証実験を令和2年10月から開始しています。公民館で活動されているサークルの紹介も行っていきますので、ぜひご利用ください。

【実験内容】

- コミュニケーションアプリ「LINE」を活用したAIチャットボット
- 《アカウント名》福生市
- 《ID》@fussacityhall
- 音声での受け答えが可能なAIスピーカー(設置場所: 福生市役所1階)

【提供サービス】

- 住民登録・各種証明に関する質問・回答
- 地域で活動する団体の一部を紹介

【対応言語】

- 日本語
- 英語
- ベトナム語
- 中国語(簡体字)

「LINE」の友だち追加は右記QRコードからできます。

【問合せ】 福生市企画財政部行政管理課 ☎ 042・551・1580

※提供サービスや対応言語は、今後充実させていく予定です。 ※予告なく、内容の変更や運用を中止する場合があります。

サークル紹介・会員募集

いろいろは会は、かな文字と実用の書を学んでいます。 少人数ですが女性同士でわきあいあいと月2回活動しています。

【活動日】 月2回 木曜日 午後

【場所】 白梅分館

【会費】 月額二千元

【連絡先】 山田 ☎ 042・553・6923

福生市民コーラス(女声合唱)

1976年福生市公民館合唱講座より自主サークルとしてスタートし、今年で44周年を迎えました。世界の名曲や日本の合唱曲などを練習しており、市民音楽祭、文化祭、白梅まつりといった多くの催し物へ出演したり、地域福祉施設の出前コンサートや定期演奏会を開催しています。

現在、新型コロナウイルス感染症予防のためマスク着用で活動しています。

ハーモニイを楽しみたい方、是非ともご参加ください。

【活動日】 月3回 土曜日 午前

【場所】 白梅分館

【会費】 月額三千元

【連絡先】 坂戸 ☎ 042・553・3573

「わがらの事業」

各館で様々な公民館主催講座を行います。最新情報については、広報ふっさや福生市ホームページをご覧ください。ぜひご参加ください。

茶室福庵でお茶席体験

▼新型コロナウイルス感染症対策のため、事業を中止していましたが、感染症予防に十分配慮しながら12月から再開いたします。

初めての方も立礼席(椅子席)で気軽にお茶席を体験できます。おいしい抹茶とお菓子でおもてなしします。

【日時】 12月13日、1月10日・24日、2月14日・28日、3月14日・28日の日曜日

①午前10時～11時、②11時～正午、③正午～午後1時の三部制

※体験時間は約15分を予定しています。

【場所】 茶室「福庵」立礼席(椅子席)

【定員】 各部3人(1日最大9人)

【費用】 300円(茶菓子代ほか)

【申込み】 11月4日(水)から公民館公民館係窓口へお越しください。(午前9時から午後5時まで)

【問合せ】 公民館公民館係 ☎ 042・552・2118



特集 公民館ふっさ誌面講座

ユダヤ難民を救った二人の日本人

杉原千畝と樋口季一郎

講師 小林 岳氏

今回、公民館ふっさの誌面を活用して、特集「公民館ふっさ誌面講座」を開催いたします。ナチスからの迫害を逃れるユダヤ難民に対して、救済の手を差し伸べた二人の日本人、杉原千畝と樋口季一郎にスポットを当て、二人がとった行動を紹介いたします。

はじめに

さきに私は、福生市公民館主催講座「杉原千畝とユダヤの民」(平成30年8月、全2回)で杉原千畝の、また「歴史からひも解く北方領土問題」(令和元年8月、全2回)において樋口季一郎の業績を紹介した。本欄では右の講座で取り上げた二人の業績を簡単に紹介したい。



満州国外交部勤務時代の杉原千畝
杉原千畝記念館(岐阜県八百津町)
ホームページより

杉原千畝と北満鉄道譲渡交渉

杉原千畝(1900〜86)は、早稲田大学高等師範部英語科(本科)中退後、外務省給費留学生としてロシア語習得のためハルビンに留学。外務省入省後、満州帝国外交部に転じて北満鉄道買収交渉(1933〜35)に参画、ソ連を相手に交渉実務を主導した。

それは満洲国とソ連の共同経営という形になっていった満洲里―ハルビン―綏芬河間の北満鉄道本線1483kmと新京(現長春)―ハ

樋口季一郎とユダヤ難民の救済



第五方面軍司令官時代の樋口季一郎
樋口隆一『陸軍中将樋口季一郎の遺訓―ユダヤ難民と北海道を救った将軍』(勉誠出版)より

杉原のビザ発給より3年前にユダヤ難民に手を差し伸べたのが樋口季一郎(1888〜1970)である。樋口は1909年に陸軍士官学校を、ついで18年に陸軍大学校を卒業した生粋の陸軍軍人である。

1937年12月、陸軍少将・ハルピン特務機関長としてハルピン商業クラブで開催された「第1回極東ユダヤ人大会」で来賓祝辞を述べ、そこで「パレスチナにおけるユダヤ人国家」に賛同してナチス「ドイッ

のユダヤ政策を批判したことから世界に衝撃を与えた。

樋口はこの言葉が虚言でないことを示したのが、翌38年3月に起こったオトポール事件の対応である。それはナチスの迫害を逃れてヨーロッパを離れたユダヤ難民がシベリア鉄道オトポール(現ザバイカリスク)駅で満州国への入国を拒否され、足止めされた時に樋口は食料や衣類

の給付を行い、満鉄総裁松岡洋右(1880〜1946)に交渉し特別列車を出して、ユダヤ難民を隣接する満洲里で乗車させてハルピンに移送、満州国内の入植や上海租界への移動を斡旋したのである。

このオトポール―満洲里―ハルビン―上海に至る路線は「ヒゲチルート」と呼ばれ、多くのユダヤ難民が利用することとなる。そこには杉原ビザの受給者もいたであろうことは想像に難くない。

樋口季一郎と対日戦の戦い

1942年8月、陸軍中将樋口季一郎は北部軍司令官として札幌に着任、44年3月には千島、樺太、北海道の全兵力を統帥する第五方面軍司令官に就いた。

1945年8月9日、ソ連は対日宣戦を布告して満洲と南樺太に侵攻したため、樋口は第五方面軍に對ソ作戦を発動した。ソ連の目標は南樺太、千島列島、北海道北部(留萌と釧路を結ぶ線の北側)の占領にあったが、ここでは占守島の戦い(8月18〜21日)について略述する。

それは1945年8月18日未明、千島列島北端の占守島にソ連軍が無警告上陸したことに端を発する。樋口は麾下部隊に「断固反撃」を命じ、ソ連軍に痛撃を与えた。この日本軍最後の大勝利はスターリンの北海道占領計画に狂いを与え、北海道への侵攻を防いだ。

ここで北海道新聞(2017年12

ルピン間の支線240kmのソ連側権益の譲渡交渉で、ソ連が提示した価格は2億5000万ルーブル(6億2500万円)、満洲国(日本)の希望購入価格は5000万円であったため、苛烈な交渉が2年近く続いたが、日本側は杉原を中心に緻密な情報戦を展開し、ソ連側を圧倒して1億7000万円(鉄道や付帯事業一切、従業員退職金3000万円を含む)まで下げて決着した。日本外交の勝利と言つべきであろう。ちなみに1935年度日本の一般会計歳出総額は22億円ほどである。

カウナスの領事館新設とユダヤ難民の救済

1939年7月、杉原は在リトアニア領事代理(副領事)に任命されて臨時首都カウナスに着任、11月に領事館を開設した。日本人が1人も住まぬリトアニアに領事館を開き、杉原が赴任した背景には、同年5月に勃発したノモンハン事件(5月11日〜9月16日)に関するソ連情勢の

結果であろう。

月30日)が伝える米ソ共同の「プロジェクトIIフラ」について一言すると、それは1945年2月のヤルタ会談後の4〜9月にソ連兵(1万2000人)をアラスカ州コールドベイ基地に集めて艦船やレーダーの習熟訓練を行い、さらに米軍の掃海艇55隻、上陸用舟艇30隻、護衛艦28隻など145隻をソ連に無償貸与した極秘作戦で、ソ連の対日戦争なかんずく北方四島の占領に米軍が関与したことを示すものに他ならない。今後も詳細な検証が必要である。

樋口によって野望を打ち砕かれたソ連は、樋口を戦犯容疑者として逮捕することを主張したが、米英両国によって拒絶された。言うまでもなく、そこにはユダヤの人々の働きかけがあったのである。



北海道新聞電子版(2018/1/1)より

分析と欧州諸国なかんづくドイツ情報収集にあるとされる。

杉原は、1940年、在リトアニア領事代理の時代に、身辺に迫る第二次世界大戦の危機に直面しながら必死の覚悟と信念を胸に、祖国を追われて異国に亡命してきたユダヤ難民にビザを発給し、その命を救った。7月18日早朝、杉原は領事館前に続々と集結するユダヤ難民のざわめきによって目を覚ました。その日から9月5日にベルリン行国際列車でカウナスを去るまでの50日間、外務省に数次にわたってビザ発給を懇請し、それを拒絶し続ける訓令に背いて2000通以上のビザ(日本通過査証)を発給する杉原の苦闘がはじまるのである。ここでビザを得てシベリア鉄道に乗り、ウラジオストクから敦賀を経て神戸および横浜から米国・上海などに渡って命をつないだユダヤ難民は6000名を越えるとされる。それから80年を経た現在、その子孫は世界各地で命の枝葉を拡げていることであろう。

杉原記念館



Sugiharos namai / Sugihara House
カウナスの杉原記念館で
買い求めた絵はがき
(2016年9月4日)

おわりに

杉原千畝と樋口季一郎は、人間としての尊厳を否定され、人権を踏みこじられてギリギリ命をつないで異国をさまようユダヤ難民に救いの手を差し伸べた人物として知られている。

管見のかぎりでは、杉原千畝と樋口季一郎が会った記録はなく、また互いを評した記事も確認できない。ただし二人は「北満鉄道譲渡交渉」・「極東ユダヤ人大会の祝辞」・「オトポール事件」などから「その人の存在」を意識したことは間違いなさる。新資料の発見によってその間際が埋まることを祈念したい。

講師プロフィール
小林 岳(こぼやし たかし)



福生市公民館
講座にて

(早稲田大学高等学院教授)
主な著作に「サクセンハウゼン強制収容所訪問記」(『早大学院研究年誌』59号)、「ワイリニユス・カウナス訪問記」(同61号)、「アウシュヴィッツ・ビルケナウ強制収容所訪問記」(同62号)、「後漢書劉昭注李賢注の研究」(汲古書院)、「九条家旧蔵鈔本『後漢書』断簡と原本の日本将来について―李賢『後漢書注』の禁忌と解禁から見る―」(『中国学術の東アジア伝播と古代日本』所収、勉誠出版)などがある。